

(社)地盤工学会 室内試験規格・基準委員会
「平成 20 年度 第 5 回 議事録」

日時	平成 20 年 11 月 13 日(木) 10:30 ~ 15:00		場所	地盤工学会 3 階会議室	
委員長	後藤 聡		幹事(WG9)	豊田 浩史	
幹事(WG1)	川崎 了		委員	森田 宏	×
委員	小橋 秀俊	×	委員(WG1)	杉井 俊夫	
委員(WG1)	細野 高康		委員(WG2)	川口 正人	PMのみ
委員(WG2)	太田 岳洋		委員(WG3)	渡部 要一	
委員(WG3)	山本 肇	×	委員(WG4)	仙頭 紀明	AMのみ
委員(WG4)	畠山 正則		委員(WG4)	上原 真一	×
委員(WG5)	横田 聖哉 (中島 伸一郎)		委員(WG6)	平井 貴雄	
委員(WG8)	石川 達也	AMのみ			

:出席 :電子会議出席 :代理出席 ×:欠席
議事録担当:川崎 了

配布資料:

資料番号なし:平成 20 年度第 5 回室内試験規格・基準委員会議題書

資料 20-5-1:平成 20 年度第 4 回室内試験規格・基準委員会議事録

資料 20-5-2:平成 20 年度第 6 回理事会議題書

資料 20-5-3:平成 20 年度第 4 回基準部会議事録(案)

資料 20-5-4(1):JIS Z 8301:2005 の附属書 G および H

資料 20-5-4(2):地盤材料試験の方法と解説原稿執筆要領

資料 20-5-4(3):第 7 編せん断試験カナ文字表

資料 20-5-5(1):公示結果を踏まえた基準改訂に関する会告原稿案(WG1)

資料 20-5-5(2):公示結果を踏まえた基準改訂に関する会告原稿案(WG2)

資料 20-5-5(3):公示結果を踏まえた基準改訂に関する会告原稿案(WG3)

資料 20-5-5(4):公示結果を踏まえた基準改訂に関する会告原稿案(WG4)

資料 20-5-5(5):公示結果を踏まえた基準改訂に関する会告原稿案(WG5)

資料 20-5-5(6):公示結果を踏まえた基準改訂に関する会告原稿案(WG6)

資料 20-5-6:赤本改訂版の解説(未完部分)原稿一式

資料 20-5-7(1):基準の改変経緯(WG1)

資料 20-5-7(2):基準の改変経緯(WG2)

資料 20-5-7(3):基準の改変経緯(WG3)

資料 20-5-7(4):基準の改変経緯(WG4)

資料 20-5-7(5):基準の改変経緯(WG5)

資料 20-5-7(6):基準の改変経緯(WG6)

資料 20-5-8:転載許可願い提出先一覧表

資料 20-5-9:編集工程表

資料 20-5-10:JIS A 1210「突固めによる土の締固め試験」に関する質問の回答書

資料 20-5-11:平成 20 年度予算の執行状況一覧表

資料 20-5-12:地盤工学会基準「土の陽イオン交換容量(CEC)の試験方法」

議 題:

【審議事項】

(1) 基準・解説における表記法について(カタカナ表記で末尾の「 - 」)

用語のカタカナ表記,すなわち,JIS Z 8301:2005 の附属書 G および H について議論した。その結果,用語のカタカナ表記は学術用語として認められている JGS の地盤工学用語辞典の索引に掲載されている用語に基づくこと,逆に,その索引に掲載されていない用語は JIS Z 8301:2005 に従うことを原則とすることにした。なお,この原則に合わない用語については 11 月 21 日(金)までに各 WG(各編)でリストアップし,当委員会内で表記を統一することになった。

(2) 公示結果を踏まえた基準の改訂

各 WG より,公示結果を踏まえた基準の改訂に関する会告原稿案が示された。各 WG は,会告原稿案と基準に関する最終的な見直し作業を行い,11 月末までに修正した会告原稿案と最終版の基準を地盤工学会事務局および幹事会まで送付する。書式などの各 WG 間の全体調整を行った後は 12 月初旬を目途に基準部へ上申し,約 1 ヶ月間の電子メール審議を依頼する。なお,会告原稿は 3 つ,すなわち, WG2 の CEC 基準(1 つ), WG6 のジオテキスタイル関係基準(5 つ),その他の WG1 ~ WG5 の基準,に分け,地盤工学会誌の同じ発刊号の会告として掲載する。また,「改正基準案」の表現は使用せず,「基準改正案」または「改正案」を用いる。

(3) 解説の査読(未完部分)

未完部分の解説について確認を行った。未完部分の解説は WG4 と WG6 にあり,両 WG は解説原稿が完成次第,両 WG の査読を担当する WG1 に連絡して個別に査読を実施することにした。

(4) 基準の改変経緯

各 WG より,基準の改変経緯について原案が紹介された。その後,当委員会内で議論した結果,すべての WG で書式を統一することはせず,各編(各 WG)で使用されている書式やこれまでの改変経緯などを踏まえて各編(各 WG)で統一して表記することにした。

一方,各 WG に対して出された主な意見としては,以下に記載するとおりである。

<WG1>

- ・「JIS A 1201 T-1979」などのように,実際の JIS 規格番号にない番号を付して示すべきではないとの指摘があり,例えば「JIS 改正原案を掲載した」などの表現に修正する。
- ・「日本工業標準調査会」の末尾に「土木部会」を加筆する。

<WG2>

- ・「8. 腐植含有量試験」を削除し,「5. 有機炭素含有量試験」に組み入れる。

<WG4>

- ・「力学試験のための乱さない粘性土試料の取扱い方法」および「岩盤不連続面の一面せん断試験方法」が欠落しているため,加筆する。
- ・基準の施行日は理事会承認日とする。

(5) 第1編について

後藤委員長より、第1編の原稿執筆を担当する候補者が紹介された。第1編の原稿は、平成21年1月末までに完成させる。

(6) 原稿(図表を含む)提出の時期と方法の確認

原稿の提出時期と提出方法について確認を行った。原稿に関しては、MS-Word形式のファイルを12月末までにサーバへアップロードしていただく。一方、図に関しては、PDF形式のファイルまたは紙面により12月末までに地盤工学会事務局へ提出する。なお、図はトレースの必要性の有無がわかるようにしておく。

(7) 転載許可について

各WGは、地盤工学会事務局から送付される転載許可願提出先一覧表(資料20-5-8)に必要事項を記入し、解説原稿の完成時までに地盤工学会事務局まで提出する。図や表などを転載する場合には、それらを特定するためPDF形式のファイルとして一緒に提出する。なお、許可願先には、個人と団体の両方を記載する。また、個人の場合は後藤委員長名とし、団体の場合は地盤工学会名として送付する。

(8) 各WGの作業状況と今後のスケジュールの確認

各WGの赤本改訂に関する作業状況を踏まえ、今後の作業スケジュールについて確認した。具体的には、以下に記載するとおりである。

- ・平成20年11月21日(金):地盤工学用語辞典にないカタカナ表記の一覧表の提出
- ・平成20年11月末:JGS基準および基準改訂に関する会告原稿の提出
- ・平成20年12月初旬:JGS基準および基準改訂に関する会告原稿を基準部会へ上申
- ・平成20年12月末:解説原稿の完成(第1編および第7編を除く)
- ・平成21年1月:幹事会による入稿前原稿の最終確認(第1編および第7編を除く)
- ・平成21年1月21日(水):JGS基準および基準改訂に関する会告原稿の基準部会承認
- ・平成21年1月30日(金):JGS基準および基準改訂に関する会告原稿の理事会承認
- ・平成21年1月末:解説原稿の完成(第1編および第7編)
- ・平成21年1月末:原稿の入稿(第1編および第7編を除く)
- ・平成21年2月:幹事会による入稿前原稿の最終確認(第1編および第7編)
- ・平成21年2月末:原稿の入稿(第1編および第7編)
- ・平成21年4月~7月:入稿した原稿の校正作業
- ・平成21年8月末:校正完了
- ・平成21年10月末:赤本改訂版の製本完了
- ・平成21年11月初旬:赤本改訂版の販売開始

(9) その他

- ・解説執筆時におけるISOとJIS(またはJGS)との関係について明らかにして欲しいとの意見が出された。当委員会内で議論した結果、執筆者の個人的な意見や主観などを入れずに淡々と記述し、単にISOやJISなどの紹介にとどめることを確認した。

- ・赤本改訂版の「まえがき」や「基準の改変経緯」などにおいては、「日本工業標準調査会土木部会」と表記することで統一する（「経済産業省」の記述は不要）。
- ・基準および解説の原稿執筆で使用しているサーバ内のフォルダ名がわかりにくいいため、フォルダ名を整理して欲しいとの要望があり、幹事会で対応することになった。
- ・各編(各 WG)の解説原稿の中に基準および規格を含めるかどうかに関する質問が出された。当委員会内で議論した結果、基準および解説を解説に含めることにした。
- ・10 年前の赤本改訂時に作成した転載許可願の一覧表が欲しいとの要望があり、地盤工学会事務局より各 WG まで送付してもらうように幹事が依頼することになった。

【報告事項】

(1) 理事会の報告

理事会の報告が行われた。その主な内容は、「土質試験 - 基本と手引き - 」改訂 WG の委員構成、「岩石および岩盤不連続面の動的繰返し強度・変形試験方法」基準化検討 WG の新規設置などである。

(2) 基準部会の報告

基準部会の報告が行われた。その主な内容は、平成 21 年度予算案、「土質試験 - 基本と手引き - 」改訂 WG の委員構成、「岩石および岩盤不連続面の動的繰返し強度・変形試験方法」基準化検討 WG の新規設置、「土質試験 - 基本と手引き - 」の増刷、地盤工学会ホームページの改定、規格・基準の英訳などである。

(3) 会員からの質問に対する対応

会員からの 1 件の質問に対する回答が報告された。なお、回答書については、既に質問者まで送付済みである。

(4) 今年度予算の執行状況

平成 20 年度の予算執行状況が示され、一般会計が赤字とならないように努めることを確認した。今後の予定としては、WG1～WG6 はグループリーダーと幹事の会合(WG 幹事会)を持ち、WG8 および WG9 はメンバー全員が集まる予定である。なお、本日の委員会に要する費用は一般会計ではなく、刊行事業特別会計から支出するように幹事が変更の手配を行う。

(5) その他

- ・次回委員会に関しては、今年度の開催予定はない。必要に応じて、適時電子メール審議または幹事会により対応する。

以上